

学会報告

記念すべき第60回日本糖尿病学会学術集会が名古屋国際会議場他で行われ出席して参りました。
北海道から行ったものにはかなりの暑さで暑さに慣れた頃には帰らなければ行けない何とも大変な思いをしてきました。
名古屋はその昔江戸時代を迎えるに当たって徳川家康が衆知を集めて名古屋城を築き、整理した徳川家康の町です。
名古屋城にも厚田神宮にもその痕跡が至るところに残っています。
大都市名古屋ですが、実は名古屋で糖尿病学会が開かれたのは17年ぶりで愛知医大の中村大二郎先生の会長の下、15000名ほどの参加者で驚くほど盛大な会となりました。
人数があまりに多く、通常の学会運営では収まりきらず、国際会議場の地下駐車場を車を閉め出してポスター会場にするなど苦心の運営でありました。
糖尿病学の夢の実現へ：未来の架け橋をテーマに開かれた会場には大勢の医師、看護師、栄養士、技師他が訪れ熱のこもった討論が行われていました。
話題の中心は最近糖尿病薬としてシュアを急速に拡大しているSGLT2阻害薬についてで、
この薬剤は体重を下げるというユニークな働きがあるだけでなく心保護作用、腎保護作用、脂肪肝をよくする作用など多方面に効果があることがわかり、
さらに体重減少作用が血糖を下げる効果と一致せず、体重減少作用がなぜか途中で止まってしまうなど多くの謎を残している分野です。
この薬剤の臨床成績や謎に迫る研究が数多く発表されていました。
また400万人が服用しているというDPP-4阻害薬も週1回製剤が発売され、その効果と患者評判などが議論されていました。
他に一昨年発売された新しいインスリンは持効型インスリンと超速効型インスリンを配合したもので、その臨床成績、
GGLP-1受容体作動薬という注射薬には週1回製剤が登場し、その臨床成績や使い方の工夫などが発表されていました。

当院からも日頃業務多忙の中で7題の演題を発表することができました。

菊地実 医療スタッフ優秀演題賞審査口演

種田紳二口演

土田健一 ポスター発表

飯島康弘 ポスター発表

葛葉守 ポスター発表

萩原誠也 ポスター発表

坂東秀訓 ポスター発表

スクリーニング腹部CTにおけるインスリン由来皮下病変偶発についての検討

軽度腎機能障害2型糖尿病におけるSGLT2阻害薬の体重減少効果および血糖降下作用と腎機能の関係

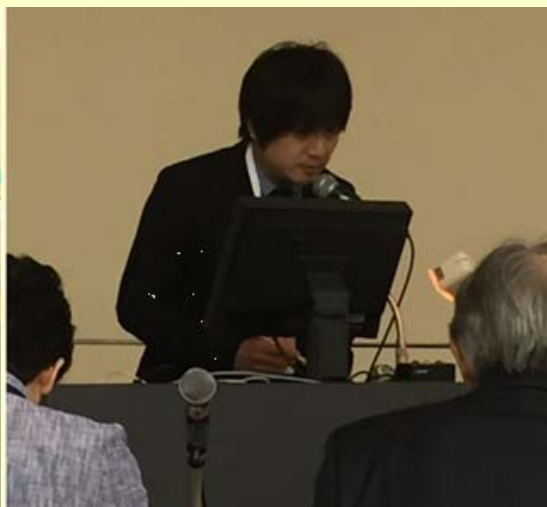
SGLT2阻害薬トログリフロジン2年間長期投与の有効性と安全性の検討

エンパグリフロジンによる体組成の変化と心不全・酸化ストレスマーカーへの影響

リラグルチド長期継続治療における経過と評価

持続血糖測定(CGM)における2型糖尿病透析患者における血糖動態の検討

当院入院患者におけるDehydroepiandrosterone-sulfate(DHEAS)と網膜症、慢性腎臓病との関係





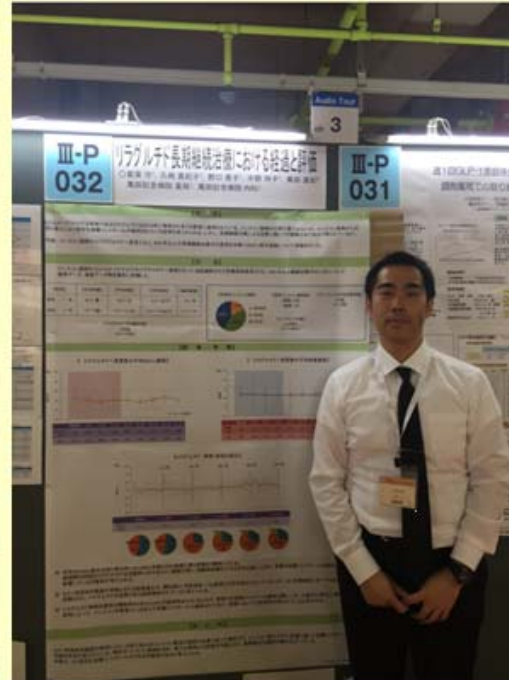
菊地技師長-このあと医療スタッフ優秀演題賞を受賞しました



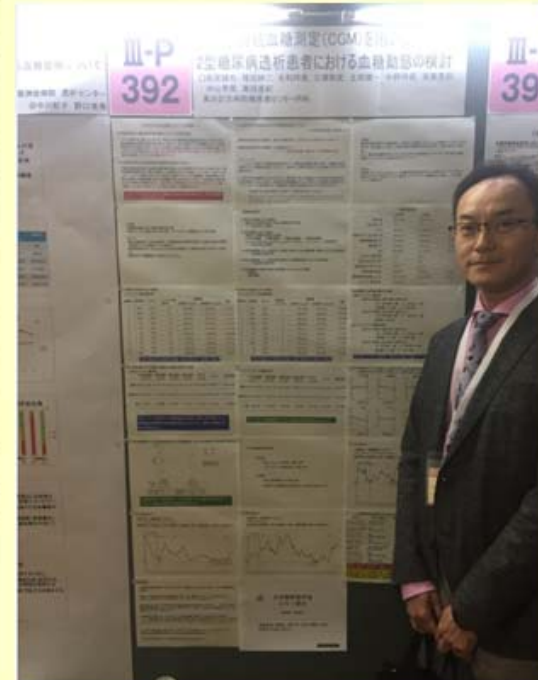
朝のランニングの会では有名な高橋尚子さんも



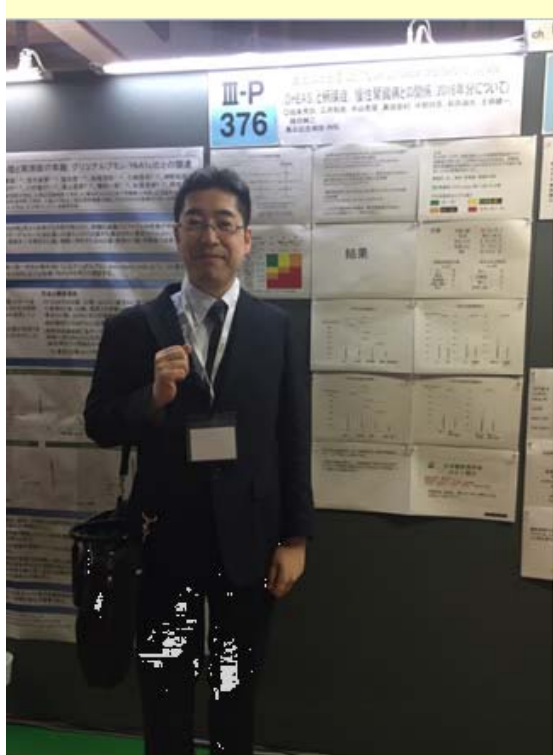
種田副院長



葛葉薬剤師



萩原医師



坂東医師



土田医師



飯島医師



学会ポスターの原画は名古屋の版画家 山本容子さん作



萬田院長

来年は5月に東京国際フォーラムで行われる予定です。文責 種田紳二

